

発明の名称：イセエビ用の増殖礁とその設置方法、イセエビ用の増殖礁
発明者：吉村 拓、高木儀昌
共有特許権者：福島順也
番号：特許第4998877号(特願2007-15331)、特許第4998908号(特願2012-1834)

管理番号136,223

解決すべき課題

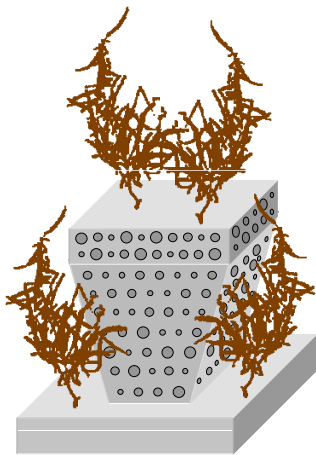
九州などでイセエビ資源が長年に渡って減少しています。人工種苗はまだ量産できず、稚イセエビの育つ場所である藻場も衰退・減少しています。

→ 天然稚エビを大切に守り育てる環境の造成が重要

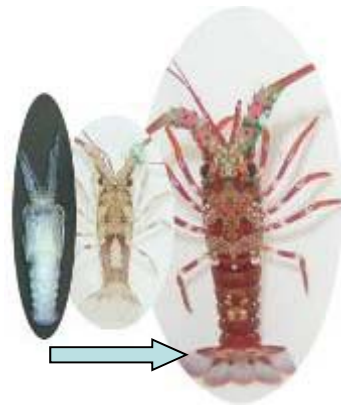
発明のポイント

稚イセエビが高密度で長期間生息する環境は、1)体がすっぽり収まる最適サイズの孔が豊富にあり、2)ポストラバが着底し、稚エビが餌を求める海藻が豊富にあるという、2つの条件を満たしていることを解明しました。

この環境を人工的に造るための人工礁デザインを考案、その効果を野外で実証しました。



考案デザインの一例
海藻は自然着生



体長2cmから約10cm
に成長するまでの1年半
高密度で生息し続ける

6年に及ぶ野外実験で効果を実証



設置2年で想定通りに海藻が着生



ブロック壁面に高密度で棲む稚エビ

活用方法

・藻場の中や周辺に設置すれば、もとの藻場が持っているイセエビ成育場としての機能を向上させることができます。